



輝き Kagayaki

協働!感動!躍動!
きょうどう かんどう やくどう
いきいきと輝くまち・三鷹

Vol.12

2014年6月13日発行

[発行者] 清原けい子後援会事務所 〒181-0001 東京都三鷹市井の頭1-14-23 Tel&Fax.0422-71-0150

協働の場としての図書館 「南部図書館みんなみ」開館と 三鷹図書館50周年 三鷹市長 清原慶子

平成25年11月23日、三鷹市としては約20年ぶりの新しい市立図書館である「南部図書館」が、公益財団法人アジア・アフリカ文化財団との協働で完成しました。図書館の愛称を公募して、「みんなみ」としました。これは南部の「みんなみ」と「みんな見にくる」の2つの意味を併せ持つ、親しみやすい愛称です。応募作の中から明るい屋外テラスには「まなびてらす」を、公式キャラクターには「なんと！くん」を選びました。

「南部図書館みんなみ」は、小さなお子さんからご長寿の方まで、多世代の、多くの皆様にゆっくり過ごしていただける、約100席の閲覧席を有する滞在型の図書館です。また、アジア・アフリカ文化財団所蔵の「郭沫若文庫」などの貴重な資料の展示や財団図書館との連携など、この図書館ならではの特色ある活動も活発です。開館にあたり、図書の配架やガーデニングなどの「図書館サポーター」を募集したところ、約100人の応募がありました。図書館は基本的には生涯学習の拠点ですが、まさに、「みんなみ」は交流と連携、協働の場としての役割を担っています。

さて、平成26年度は、三鷹市に市立図書館が開館して50周年目にあたります。1964年(昭和39年)東京オリンピックが開催された年に、現在は三鷹市芸術文化センターがある場所(上連雀六丁目)に、最初の図書館がオープンしました。

その後、1984年(昭和59年)に図書館本館が現在の場所(上連雀八丁目)に新築され、東部図書館、西部図書館、駅前図書館と、分館の設置も進みました。当初3,500冊からスタートした蔵書数は、今や67万冊を超えてます。開館50年を迎える前年に長年の懸案であった南部図書館を開館できたことは、三鷹図書館が次の50年へ向けて更なる歩みを進める原動力になると思います。



開館式での清原市長。

50周年を迎えて、三鷹図書館では中学生・高校生に呼びかけて、「みたかとしょかん図書部！」を立ち上げました。これは、10代の若者が読書を通じた部活動のような交流を進める中から、読書の楽しさや図書館の魅力を発見し、同世代へ発信してもらうことをめざしたユニークな取り組みです。すでに、秋に予定している50周年記念イベントへ向けて、20人ほどの青少年が活動を始めています。

また、「みんなみ」で始めた図書館サポーターについては、三鷹ネットワーク大学と連携してサポーター養成講座や講演会などを開催する予定です。そして、各館で活躍の場を拡充する取り組みをおこなっています。

三鷹市では、コミュニティ・スクールでのボランティア活動の実績が年間延べ16万人に及ぶなど、市民力の高さが際立つまちづくりが進んでいます。市民の皆様との協働によって、三鷹の図書館の次なる50年が、いつそう豊かなものになることを心から願っています。



「南部図書館みんなみ」の外観。